

平成28年度第3回協働事業評価会

平成28年7月29日(金)午後2時

本庁舎6階 第3委員会室

出席者：久塚委員、宇都木委員、関口委員、渡邊委員、竹井委員、伊藤委員、高橋委員、  
加賀美委員

事務局：地域コミュニティ課長、小宮山協働推進主査、勝山主任、松永主事

久塚会長 定足数に足りていますので資料の確認をお願いします。

事務局 資料の確認をさせていただきます。まず、資料1の①から③として、評価項目ごとの評価コメントの調整の資料をお配りしております。

それから、資料の2としまして、平成28年度新宿区協働事業評価報告書実施2・3年目の案をお配りしております。

本日の資料は以上となります。

久塚会長 ①から③までのものまで、ごらんとおり黄色と青があつて、評価コメントを下にまとめるという形で文章を丸めてまとめた案を三つの事業についてお出ししているのですが、これを今から項目ごとに決めていく、そのときの説明をどういうふうに行ったかということで、簡単に事務局のほうから説明をお願いします。

事務局 はい。上に書いてある部分が委員の皆様からいただいた元の評価コメントになっておりまして、プラスの評価については黄色、マイナスの評価については水色に塗ってあります。水色の中には課題やこれからの期待といったまだプラスとまでは言えないものも一部含んでおります。皆様のご意見を反映させるようにしてつくりましたまとめの案が下の囲みの中に記載してあります。

こちらは先日お送りしましたものから一部誤字・脱字などを修正させていただいています。こちらのコメントを読んでいただきまして、本日直したほうがよいところですか、削ったほうがよい、追加してほしいなどというところをご指摘いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

久塚会長 まず新宿スポーツ環境推進プロジェクト、それでその後商店街、働きやすい

職場づくりという順で、2年目の資料1の①から見ていきたいと思います。何ページのことということのご指摘でも構いませんので自由に、順番は考えませんからスポーツのほうからやっていきたいと思います。指摘ございませんか。

はい、伊藤さん。

伊藤委員 大したことではないですけども、まずスポーツのほうです。上から4行目、その中で「この事業は、子供たちだけが」というのと、これは「に」です、子供たちに提供するという。それから、下から3行目、「寄与していることも」ではなくて「寄与していることは、課題をとらえているものと評価できます」と。

久塚会長 今回の訂正のもののご意見よろしいですか。伊藤さんはそんなスポーツはそれだけ、このあたりでは？

伊藤委員 まだあるよ。2のほうで。その4行目、「参加人数の目標設定は再度検討する必要もあるのではないか」、「必要がある」、「が」にして。それから次は④、「役割分担の決定に当たっては、双方が密にコミュニケーションを図りながら行われたものと評価できます」。この2行目のところはそこです。それから、次は5、その上から2行目、「通年」とあるのだけれども、「通年」がいいのか、「年間」がいいのか、「年間の企画内容」。年間のほうがよいような気がしている。あとは次のときもどこかにあった、「通年」と出てきたけれども。大したことではないですけども、けれど、「年間」のほうがいいですけども、これは。8のほうの最後のほう、「一方、本事業に参加した子供たちが継続してスポーツに取り組むことが地域の」という形で、「できるとき」で「には」がいいのではないの。これ、それと下から2行目のところ、「課題が残ります」とするのか「残りました」と確定にするのか。確定のほうがよいような気がするのだけれども、確定でないとなれば「課題も残っています」とどっちかだと思う。

以上です、私が気がついたのは。

久塚会長 今回の指摘、特に異論はございませんか、何か。

はい、ではほかの委員の方。はい、宇都木さん。

宇都木委員 ちょっと私、記憶が定かではないから議論があったのかどうかわからないけれども、これ学校とのかかわりのところは何か議論がなかったですか。

久塚会長 学校とのかかわり。

宇都木委員 学校教育とこのスポーツ。だから、これは今のところ、これでは地域のある意味ではサークルみたいな話だけれども、実際に学校教育の関係について何か議論

はなかったですか。ちょっと全く学校とは無関係というわけにもいかないでしょうから。

事務局 特に団体や担当課のほうからはなかったかと記憶していますけれども。

宇都木委員 でも、小学校なんかは学校教育の関係の部署は大きくなってしまえばそれはそれなりに仕事をしているのだからいいのでしょうかけれども、なかったら、あまりなかったのならいいですけども、何かちょっと気になったので。

久塚会長 招集するのはやるかもしれないけれども、特にはないのです。ほかの委員。

了承でいいですか、これで進めて。

宇都木委員 はい。

久塚会長 では、1番目のものはまた何か思い出したらこの後で発言されたら結構ですけども、資料1の②を使って商店街ホームページ活性化事業についてご意見を求めます。どうですか。

伊藤委員 さっきと同じやつですけども、まず1。6行目、「各個店を訪問し、ニーズの把握に努める」というよりも、「異なっているニーズの把握を行い、より積極的な」点でいいのではないかなという気がした。

久塚会長 後ろに「行う」があるから嫌ったのかもしれない。今のところを「行い」に変えているそうです、はい、いいですか。「努め」のままではだめなのだ、いいですか。

事務局 はい。

伊藤委員 次に6、上から3行目「実施していただいている」と「いただいている」というのは要らないけれども。「実施している点は評価できる」、結構こういう言葉がいっぱい見られる、すごく丁寧というか。これはだから「実施している点は評価できます」でいいと思います。

7だけでも、先ほどからこれも一番下の、下から2行目のところで「事業に取り組んでいただきたいと考えます」と書いてあるのだけれども「事業に取り組んでいただきたい」と。「と考える」は要らないと思う、「いただきたい」でいいのではないかな。

あとは総合評価コメント、下から3行目のところ。これは2年度目、「2年目」いいのではないかな。

加賀美委員 実施2年目でいいのではないですか。

久塚会長 はい、ほかにはないですか。

宇都木委員 総合評価のこと、いいことばかり書いてあるのだけれども、現実には区民の中にこれがおのおのに受け入れられるかというところを本当に何か少し考えないといけないのかな。一方では高齢化が進んでくるわけで、特に都市部は高齢化が激しいので最新のIT技術

だけが先行してしまうと、そこにギャップが生まれるのでということも少し何か注意して事業を進める必要があるのだというぐらいのことは、どこかに入れておく必要があるのではないかなという感じはしますけれども。

やっているほうが、このホームページをつくっているほうは、最新の技術で一番いいやつを取り入れて、できる限り最新式のものにしたいと考えるのだらうけれども、対象となっている市民の側はそれが消化できる能力があるのかどうか。特に高齢化が進み、地域社会の中でそれをどう組み合わせるといふか、有効化を図っていくのかという少し懸念を表明しておいたほうがいいのではないのでしょうか。

久塚会長 いかがですか。12ページにあるほうの一番下のようなことと関係するような発言だったと思うのですけれども。

伊藤委員 今、宇都木さんが言われたようなことなのですが、この色分けにしてあるところのBの真ん中あたりのところの「産業振興課としては、この事業を通して得られた知見、課題ニーズ等を別の商店街振興策としても生かしてほしい」と、これは区に対する問題提起だから、一つは。

それと、もう一つはこの一番下のほう、Cの一番上のところ、「広く区民の方に対する」。その一つ、「この事業が区商連のホームページ更新という、いわば技術的なことに終わらないように期待したい」、値しているといふか、入れておくと結構違うのではないかなという気がする。

久塚会長 何か具体的に少子高齢化というような表現を使わずに、使わなくてもその二つを入れると、区や区民のニーズというものを踏まえたもうちょっと形だけのホームページではないことに終わらないでねという表現になるという。宇都木さん、それを生かすとうのですか。

宇都木委員 うん、実態社会としてはかなりそのことが問題になる、実際は。あんなの難しくおれたちはよくわからないという話になってしまったらあまり意味がないので。

久塚会長 もう個別具体的な指摘というよりは、先ほど伊藤さんが言った2カ所を使うようにして、もっと大きな課題をというのも見たらどうでしょうか、見られるようにしたらどうでしょうかという指摘を工夫してくださいということでしょうね。

中身はもう満足していますけれども、具体的にはこの2カ所、伊藤さんが言われたのでそういうことを、単にホームページだけではないし、形だけの活性化とかというよりももうちょっと大きなものを、広がりを持たせるようなことになってくると思うのです。はい、ほかには。

高橋委員 すみません。すごく細かいことなのですが、①と②の最後の、②のほうは最後に「していただくことを期待しています」というふうな表現に今のところなるのですが、

商店街のほうは。「必要だ」というのが多くて、それで①のほうは、さっきスポーツのほうは例えば5ページでいくと「取り組みが行われることを期待します」というふうな言い方なので表現を統一したほうがいいかなという気が。最後のほうに何とかを「期待します」というふうに統一してしまったほうが。

久塚会長 はい、ではそういう形で統一しましょう。よろしいですか。

では、③。

宇都木委員 これもみんなそういう「いただきたい」は直したほうがいい、みんな一貫して文章を。

久塚会長 はい、もちろん。この直しがあつたというふうに仮定した上で指摘をお願いします。

ないですか。では、ちょっと時間をとりますので、自分が気にかかっているところをもう一度読んでみてください。

伊藤委員 会長、いいですか。これ、一番最初に出だして「ワーク・ライフ・バランス（WLB）という言葉は」と、言葉でいいのかな。それは言葉をそんなふうに行っているけれども、「という言葉に対しての認知度は少しずつ高まっていますが」とかのほうが読みやすいと思います。

久塚会長 そこは直しておいて。この3ページから4ページにかけて、「一方で、お互いに強みを生かした」というのと、お互いの強みというのと、4ページに「お互いの強み」という、「お互いの強みを生かした連携」となっているのを、「お互いに」を全部「の」にしてしまってもいい。

手直しするときに指摘は割にさっぱりとした文章という感じなので、もし気がつくところがあつたら思い切ってそういうふうにしてみて。

伊藤委員 それと2のところのコメントの上から4行目、「進んでいるかの関連が不明確になっているものとみられます」と、「なっております」でいいと思う。3のコメントの上から5行目、上から続いて「有効に活用しきれていないものと考えます」、「いないと考えます」でいい、活用しきれていないと。

久塚会長 はい。ほかには。

宇都木委員 ちょっと7番の評価コメントはこれでいいのかどうか。「セミナー参加者からのアンケートにより満足度を調査しており、満足度も高いことから、参加者に対しては一定の効果があるものと考えます」でしょう。セミナーではなくて、これは事業本体のその理解がどれ

だけ進んだかということであって、セミナー自体が目的化されているのではなくて、そこはちゃんと位置づけを、この議論の中にあっただけども、セミナーだけが目的になってしまって、この事業全体の促進にこのセミナーがどういう役割を果たしているのかということが必ずしもはっきりしないから、そういう意見だったと思うのだけれども、ここはちょっと書き直したほうがいいのではないかと。満足度も高いことから、参加者に対して一定の効果がありますではなくて。

伊藤委員 次のところからがそれをある程度否定しているのだ。一方で、この事業が目的とすることは、セミナーや事例勉強会に参加して、この辺の言葉はセミナーに来られた方がどのように持ち帰り、自社の取り組みに反映したかをしっかりと把握することが必要だったと。

宇都木委員 だから、この前を削ってしまってもいいのではないかと思う。最初の2行を削ってしまうの、「一方で」というところまで削ってしまって、そうしたほうがよりはっきりするのではないの、と思いますが。

久塚会長 やっぱりそうは言っても参加した人の内々なのだけれども、満足度は高いというふうにした文章が4本出てきているので、そこはどうしようかなというのが悩ましいところで。

宇都木委員 この前も議論があっただけども、セミナーが本来課題を促進していくためにどの程度の役割を果たしてきているのかというところが問題なので。

久塚会長 そうでしょう。

宇都木委員 だから、参加した人たちは何かそのテーマがどういうものか聞きたいから行って、それは聞いてよかったと、それはそれでいいのだと思うのだ。だけど、それと本体事業に果たす、セミナーが果たす役割というのはどういうものであったのかというのがつながっていかないと、ああ、この話は聞いてよかったと言って丸をつけて、参加者が、ああ、満足、満足と言って帰ったって、必ずしも本体事業は進んでいくかということにはならない。

ほかの、あとの全体を通しての文章が、やっぱり不十分だよというところが主翼だから、そこにそういうことにつながっていくようにしないと。それはセミナーを聞いた人は、それはそれで、ああ、きょうの話はよかったねと言うかもしれないけれども。

久塚会長 「セミナー参加者に対しては一定の効果があったと考えられる。一方で」と言うぐらいだったら？

伊藤委員 それで私は直したのです。今言ったように前は生かして、「セミナー参加者からのアンケートで満足度を調査しており、満足度は高いことから、参加者に対しては一定の効果か

あったものと考えます。一方で、この事業が目的とすることは、セミナーや事例勉強会の参加者が企業に持ち帰り、どのように自社の取り組みに反映したかです。そのための取り組みが不十分であり課題が残っております」とうまく書くか。

久塚会長 今のだと宇都木さんはどうですか。

宇都木委員 うん、つまりセミナーで満足したから、それが伊藤さんが言った後のところの企業内に反映されていないと意味がないのだ。だから、それが反映されていないと言っているのだから、片方では。だから、前のセミナーもよくなかったということなのだけれども、課題から見れば。役割を果たしたかと言ったら果たしていないということなのだ。セミナー自身がよかったから、ではよかったらそれぞれの企業に、参加した企業にさまざまな反映がされて、少しでもその機運を高めていく役割を果たしたというのならセミナーの内容はよかったところなのだけれども、セミナーの内容はよかったけれども、評価が高かったけれども、しかしそのことが本題解決に直接つながるものではないという話になってしまうと、セミナーもよかったのかなという話になるのではないの。

伊藤委員 これはセミナー自体が難しいのだ、このセミナーをやって、聞きに来ている人がこのWLBを進めている企業の人が多分来て、ためになったと言っている。そのほかの人が多分聞いていると、あまりためになったとは思っていないと思うのだけれども、これは推測で、そうすると自分から、これからWLBに取りかかろう、推進していこうというところに対してどのような効果があったかが測定されていないといけないのだ。そこがやれていないのだ。

参加企業を分析して、そのWLBを進めているのか、進めていないのかとか、どこがやっていて、どこがやっていないのかというようなところがちゃんと本当にわかっていないとだね。

宇都木委員 セミナー自体がもう目的化してしまっているから、伊藤さんが言うようなところまで、ここの参加している企業はどのような企業の人たちが参加していて、それが実際にどの程度そういうさまざまな制度を取り入れているのかということの把握ができていないわけでしょう。だから、セミナーを評価するとすれば、その参加した人たちの属する企業、それからその企業がどの程度さまざまどういうWLBにかかわるような制度を取り入れているのかとか、そういうこともちゃんと分析して、それでそれが次の対策に役立つようなものにならないとセミナーの評価はだから言いわけができないよということ。

久塚会長 だから、セミナーに参加した人たちに対するアンケートというのはその場のアンケートでしょう。そのセミナーがよかったかどうかで、そのほうが宇都木さんが言うように会社に持って帰って、そのセミナーを聞いた人たちがどうしたのかということまでは聞いていな

ということでしょう。だけど、これは初めてワーク・ライフ・バランスなんかを聞いた人がいたとするではないですか、それとかいい話だったと思うというふうなことについては満足度が高いということはあったけれども、そのことが直接的にこの本体事業とか、申請された事業と結びつくようなものではありませんというようなことを書けばいいのではないですか。

アンケートをやったことはいいことだと思っているので、アンケートをやったことだけでとまってしまふことがいかに問題なのかということの評価しよう、表現しようと思ったら、前にアンケートをやったということは見ていますけれども、それだけではつながりませんよと一から書いてあげないと。

宇都木委員 だからそういう労働協約だとか就業規則の中にこの制度のいいところを、例えば育児休業制度だとか看護休暇だとか、そういうものをどんどん入れて、それで促進を図っていくという、そういうためにはお勉強してこのところを生かして社内の規則改定だとかに役立ててくださいよというやつをやってくればいけれども。

伊藤委員 そこに持っていくには多分そういうことをやっている企業、やっているところの事例を持っていかざるを得ない。こういうところは、大きな大企業ではないけれども、こういう点に着目して従業員との融和を図るとか、従業員の生活をどうしているとか、そういうふうなセミナーが一番わかりやすいのだ。

一つそういう実態、実際の現場がわからないと、当然書いたのだからそれをやればいい話なのだけれども、一方ではできないという現実があるわけ。それをどういうふうに打破してこのWLBを進めていくかということだから、それをだからセミナーで得たものもいいと書いてある。その人たち、いいと言う人が、ではその社内に帰ってどう展開したの、どうやって行動を起こしたのと。そこを追っかけてやってくれると一つでも二つでも事例が出るといいねという話だから。

久塚会長 はい、ほか、よろしいですか。

宇都木委員 これ同じようなこと、1番もそうだと思うのだけれども。この評価コメントの「しかし」のところから、その次の行から、参加した企業が一体となってWLBの推進に取り組み、区内のWLBの取り組みがいつそう促進されることではないでしょうかと、こうなっているのでしょうか。もう少しわかりやすくしないとだめだ。

「参加した企業が一体となってWLBの推進に取り組みることが、区内のWLBの取り組みをいつそう促進することになる」というぐらいにしないとまずいのではないの。

伊藤委員 ここのところは私もちょっと見たのだけれども、上から4行目のところで「区内

のWLB」と書いてあるけれども、「区内企業のWLBへの取り組みが」というふうにまずはこのところを言葉を変えたほうがいい。

久塚会長 うん、要するに言いたいことは、関心を持ってもらうだけでなく進めることがこの事業に求められていることですよという。

だからワーク・ライフ・バランスの推進に組み、その結果として区内企業へのワーク・ライフ・バランスの取り組みが。

伊藤委員 浸透するとか。

久塚会長 うん、浸透でワーク・ライフ・バランスへの取り組みが浸透する、促進されるということですから、言おうとしていることはわかる。参加した企業があって、それが動くことによって区内の企業全体に広がり、ワーク・ライフ・バランスの広がりが結果としてもたらされるということですよという事です。

ほかには。

加賀美委員 よろしいでしょうか。このワーク・ライフ・バランス、実は事業における区民ニーズや課題のとらえ方のところのコメントなのですけども。これは評価として4の評価をつけているわけですが、不十分であり改善が必要だと。ところが、このコメントを読んでいくと上から2段目の段落です。2段目の段落の下から4行、「本事業は課題をとらえたものであると考えます」と。ちゃんと課題としてとらえていますよというコメントを出している。

4の評価は課題のとらえ方が不十分であり改善が必要という評価シートになっているにもかかわらず、課題としてはとらえていますよというコメントになっているので、そのところが少しどうなのかなと。

久塚会長 課題をとらえたという表現が。

加賀美委員 意義があるものであるとか。それは1段落目のところで、区の第二次男女共同参画推進計画の目標の一つでWLBの推進を掲げて、その取り組みを進めているのだけれども、現状どうかというと企業の規模とか職場環境などによる認識の差、また取り組みを始めた企業においても、取り組み手法にばらつきがあり、これが課題なのではないの。このばらつきがあり課題となっていますと。

その次のところ、「その中で」ではなくて、「このような状況を踏まえ先進的な取り組み事例の発信を行うとともに、企業間ネットワークを構築し」、でワーク・ライフ・バランス推進に取り組んでいくために本事業は意義のあるものであると考えます。

その次、この課題を解決するために、ちょっとこの課題というのが。

久塚会長 だから、一般的な意味でいいことをねらっていくという、で意義があることだとしたら、ただ課題を的確にとらえていませんよという文章にするということです。

加賀美委員 そうでないと4の評価がおかしくなってしまう。ただ、委員の方では課題はとらえていると評価している。

伊藤委員 これは多分とらえているというのは、ワーク・ライフ・バランスを推進するという課題の必要性をとらえているという意味だから。それと今ここにやっているこの事業が課題解決になっているか、なっていないかということが混同してしまう。

加賀美委員 そうです、同じ課題と言いながら。

伊藤委員 そう、だからよくすべての部分がそうなのだけれども、この1番の事業における区民ニーズや課題のとらえ方、区民ニーズは絶対にある、やらなければいけない。課題は何、どこにあるのという、この課題は多分WLBが新宿区内においてそんなに浸透していないということが課題なのだ、今、部長が言ったように。それに対する解決策として、いや、この事業があるのだけれども、それも不十分ですねという展開になっている。

加賀美委員 だから、これは他の二つの事業がそのニーズ、課題については②の評価がついていますから。いずれもほかの事業、2事業については課題については十分とらえていますよという表現をしていながら、このWLBも割と評価が低いにもかかわらず課題をとらえたものでありますというので、そこら辺は少し差別化をしたほうがよろしいのではないかという。

伊藤委員 WLBは必要だけれども、今までやってきた区と協働でやっている中での課題解決にもなっていないし、現状として事業がその課題解決に直結していないということなのだ。それをみんなここに言っているのよ。

宇都木委員 そこは大体一貫しているのだ、ちょっと表現の違いだとかがあるけれども、流れているものは一貫しているのだ。

久塚会長 今、部長から発言があったみたいに意義があるテーマ、テーマ自体は意義があるというふうに。だけど、具体的にでは何をしようかというために、そこがうまくつかめていなかったり、実施できていないということのご意見が多いので、④に合致するような。

だから、この①、②のところも、評価点が②というようなのとあまり変わらないようなのが評価点④で出てくるとやっぱりよくないと思います。1冊のこういうものの中に入ってくるので、だから少し④になっているところの発言というのが強調されるようなコメントに。それでいいですか。

こちらが期待しているのとずれているとか、改善が見られないとかそういう形で工夫をして。

1年目だったら、あれだけでも、2年や3年になっているので、学習して指摘されたところが伸びているはずですが、それがあまりうまくいっていないところ、そういうところにちょっと気を遣って表現してください、お願いします。①から③までほかにありませんか。

では、もう一つの議題です。厚いものがありますけれども、この中で既にさっき部長さんは見ながら言っていたけれども、色塗りではない形のコメント、きょう手直しする前の形のものの中に埋め込まれたものが、中に織り込んであります。こういう形になるのですけれども、最初に2ページをおあけください。

事務局 2ページの「評価を終えて」のところなのですけれども、真ん中から下のところです。「区民、NPOへの波及効果」となっていたところを、評価のときの着眼点にもありました「地域社会」という言葉をここに入れさせていただきます。

それから、その下の長く網かけが入っている部分は、今回の「評価を終えて」の感想のような形になっております。こちらのほう確認をお願いいたします。

久塚会長 2年目のものについてはこう、3年目の1事業についてはこういう評価になりましたと文章にしましたけれども、よろしいですか。

では、2ページについてはこういう形で実施します。決定します。ほかには何か。

事務局 あとは前回お渡ししたときに入っておりませんでした評価結果です。9ページ以降、6番の協働事業の評価結果と、あとその後の25ページ以降の参考資料が追加で入っております。こちら事前確認書や自己点検シート、相互検証シートの様式と、あとは団体からヒアリングのときに提出された資料の一部が入っております。このような形でよろしいかどうかご確認をお願いいたします。

久塚会長 コメントはまたこれからやりますけれども。

ご存じのようにこれ3年終わったら、今3年目のものがあるのですけれども、今続けていますが、終わった後の評価というのがないのです。だから、今の時点でのものが最終というか、だからこれによって改善してもらおうという努力はしてもらいますけれども、3年終わった段階であればどうだったのという機会はないこととなりますが。

宇都木委員 そのときに最終的な説明が行政側に帰るので、だから終わってからの行政側の評価はどうだとかいろいろやるのでしょうかから、それで我々に、委員会に意見が求められれば委員会として何か意見を言うことがあるのだけれども、今の段階で言える意見は今度の報告書の中で議論して引き上げておいたほうがいいのではないですか、事務局に渡しておいたら。

久塚会長 そういうことでいいと思いますが。お気づきのところはありますか。ほかの委員

さんもよろしいですか。少し作業量が残りましたが、①の資料1の③について急いでお願いしたいと思います。

では、きょうの第3回の協働事業評価会は終わりたいと思います。お疲れ様でした。

事務局 ありがとうございました。

— 了 —